

平成 26 年・第 2 回「市民のためのがん治療の会」講演会

切らずに治す 放射線治療の着実な進歩

日時： 2014 年 8 月 9 日(土) 午後 1 時 30 分～5 時 30 分

場所： 岩手医科大学 歯科医療センター 4 階 歯学部講堂

岩手県盛岡市内丸 19-1 / 盛岡駅より バスで 10 分 ☎019-651-5111

◆ 有賀久哲 (岩手医科大学放射線腫瘍学科教授)

『 体にやさしい放射線治療 』

参加無料

「お金のための科学・医学」から
「国民のための科学・医学」へ

最新の治療と
その研究成果とは？

定員 300 名

事前申し込み不要・当日先着順
(裏面にプログラムと地図を掲載)

◆ 西尾正道 (北海道がんセンター名誉院長)

『 これから医学者が考えるべきこと、
市民・患者が考えるべきこと。 』

主催：市民のためのがん治療の会 共催：岩手医科大学・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

平成 26 年第 2 回「市民のためのがん治療の会」講演会

「切らずに治す放射線治療の着実な進歩」

主催： 市民のためのがん治療の会

今や国民病ともいふべき「がん」、その科学的根拠に基づく標準治療は、手術、放射線治療、抗がん剤による化学療法です。悪いところを取ってしまう手術、良い薬で治すという化学療法は分かりやすいですが、放射線治療は分かりにくいです。おまけに唯一の被爆国という特殊事情から、国民の放射線に対する忌避感はなかなか拭えません。世界的に見ると米欧の先進国ではがん患者の半数以上ががん治療の第一選択として放射線治療を受けており、東南アジア諸国でも日本よりずっと多く放射線治療が選択されているようです。何と言っても「切らずに」「機能・形態が温存できる」という、患者にとってのメリットを上手に利用して、治療後のQOL（生活の質）を高めることは大切です。

一方、がんを含めた多くの疾患は食の生活習慣と関係しています。がん患者の増加は高齢者が増えたからだと言われますが、それだけではなくがん罹患者は若年化していることも大きな要因です。それには戦後の大気中核実験による放射性物質の世界的な汚染や農薬や化学物質も関係しているのです。「お金のための科学・医学」から「国民のための科学・医学」への転換が必要なのです。

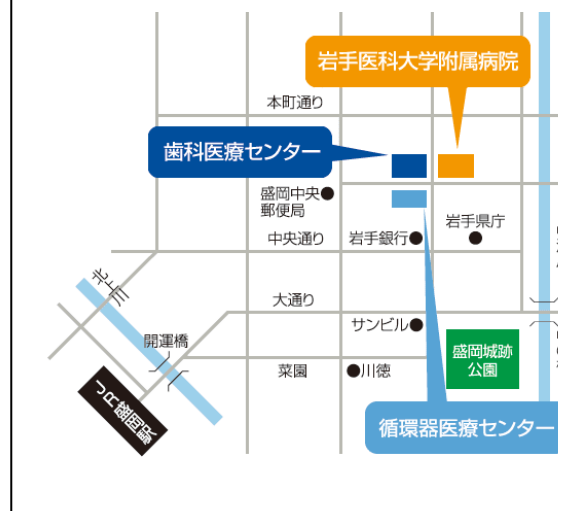
お二人の放射線治療のエキスパートの先生方のお話で、がん医療についての理解を深めましょう。

● プログラム ●

- ❖ 13:00 ~ 受付開始
- ❖ 13:30~13:40 開会挨拶
市民のためのがん治療の会代表 會田昭一郎
- ❖ 13:40~14:40
「体にやさしい放射線治療」
岩手医科大学放射線腫瘍学科教授 有賀 久哲
- ❖ 14:40~14:50 休憩
- ❖ 14:50~16:50
「これから医学者が考えるべきこと、
市民・患者が考えるべきこと」
北海道がんセンター名誉院長 西尾正道
- ❖ 16:50~17:25 質疑応答
- ❖ 17:25~17:30 閉会挨拶

(都合により、日程、講師等に変更のある場合もございますのでお含みおき下さい。)

於： 歯科医療センター4階 講堂



【交通アクセス】

- ・盛岡駅▶ (バス 10分) ▶ [中央通一丁目]
[岩手医大前] バス停・下車▶ (徒歩 2分) ▶
岩手医科大学
(盛岡都心循環バス「でんでんむし」の
利用が便利です)
- ・盛岡駅から 車で 10分、徒歩 30分